

2-4			
主 題	環境変化が認知症利用者に与える影響と 利用者の「声」を引き出す為の取り組み		
副 題	きっかけはノンアルコールビール！		
キーワード 1 認知症ケア	キーワード 2	研究期間	6 ヶ月
法人名	社会福祉法人 福陽会		
事業所名	特別養護老人ホーム 第 2 サンシャインビル		
発表者： もりもと み き おおたかひろふみ 森 本 実 樹 大 高 弘 史	アドバイザー： しまだ いのうえ ふくしま 島田・井上・福島		
共同研究者：加藤幸子 池田広宣 井上賢一 酒井みどり 青山和美			
電 話	042-553-3701	F A X	042-553-3715
今回発表の 事業所や サービスの 紹介	横田基地と七夕祭りで有名な福生市に開設し19年目となりました。特養利用者 154 名、 短期入所 16 名と合わせデイサービス等も併設している大きな施設です。理事長・統括 施設長の掲げる「人がその人らしく生活できる環境作り」をモットーに、利用者の皆さん と職員の笑い声が絶えない明るく活気のある施設です。		
《1. 研究前の状況と課題》 当施設は重度認知症専門のフロアを有し、 様々な周辺症状や日々の体調変化により多様 化する利用者に対し、全て同一のケアを行う のでは無く、個々に合わせたケアを考察し、 利用者がその人らしく穏やかに過ごせるよう に対応する事を課題としている。 日々の関わりの中で、一人一人の利用者の 様子を、時間をかけて観察し、時にコミュニ ケーションを図りながら、その人にとって居 心地の良い環境作りに努めている所です。 そんな中で、食事の拒否や、周辺症状の悪 化により、私たちの予想を超えて急激に状態 が進行してしまったケースについて、症状の 原因、及びどうすれば食事を摂取できるか考 察、対応を行い、「個々に合わせたケアを行う」 という課題について再考する必要が生じた。		《2. 研究の目的ならびに仮説》 • 環境の変化がもたらした心身への影響。 • 今ある状態の原因になっているものは何 なのか。 • 周辺症状（介護拒否・徘徊・帰宅願望な ど）が出現したことに対して、原因・き っかけを探る。 • 「安心・安全」のために「不安・危険」 を理解する。 • 「不安・危険」を解消することで、状態 の改善、認知症症状の緩和につながるか • 利用者が発信した「声」をいち早く気付 き、変化に関しての認識を改める事によ り、新入所の利用者に対してより質の高 い対応が行える。	

《3. 具体的な取り組みの内容》

認知症周辺症状の進行により在宅生活（独居）困難となり、保険者からの相談で緊急入所となった A さん(男性 84 歳)。

入所直後は周辺症状も見られず穏やかに過ごされていたが、二週間を過ぎた頃から、食事の拒否、「家に帰る」と言いながらフロア内徘徊が見られるようになった。次第に声掛けに全く応じず、表情も暗く陰しくなり、食事や水分を一切口にせず、1 日中休まずフロア内を徘徊し続ける状態に陥った。一か月を過ぎた頃には衰弱し、立ち上がる事も困難な状態になった。

- ① 孤独感や不安感を解消するため、声掛け、日常会話を積極的に行い、施設が安心できる場所と認識して頂き、職員も心を許せる対象であると感じて頂けるよう対応を徹底した。
- ② 本人との会話、及びご家族から、好まれている食べ物、飲み物の情報を聞き、口にできるものを追及する。(氷水、アイスクリーム、ジュース、お茶、牛乳等、些細な情報でも全て試行する。)
- ③ 特に良い反応が見られた「お酒、特にビールが好き」という情報に着目し、ノンアルコールビールとおつまみを提供し、食への意欲を引き出す。

《4. 取り組みの結果》

- ・ 食事の拒否は改善され、以前のように歩く事が出来るようになった。合わせて周辺症状も緩和され、徘徊も見られず、穏やかに過ごされるよう変化した。
- ・ 外出行事への参加も可能となり、ご本人からも「〇〇が食べたい」等、食に関しても意欲向上が見られるようになった。
- ・ 陰しかった表情が穏やかになった。職員の声かけに対して笑顔が見られ、快く応じるようになり、関係が改善された。

《5. 考察、まとめ》

- ・ 環境の変化が利用者の体調に与える影響は大きなものである。
- ・ 利用者本人の趣味、嗜好を深く掘り下げ対応することで、利用者の体調を劇的に改善させる一因となり得る。
- ・ 利用者を理解する上で、長い期間利用者と過ごされてきたご家族から得られる情報は重要なものであり、時に利用者の状態を改善させる大きな要因になる。
- ・ 特別な対応において、他利用者への影響についても十分な配慮が必要である（ノンアルコールビールを飲まれる際、他利用者から苦情が出た為、利用者間の関係に配慮し、場所を変え対応を行った。）。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご家族に口頭にて確認し、本研究発表以外では使用しない事、それにより不利益を被る事はない事を説明しご家族の回答をもって同意を得た事とした。

《7. 参考文献》

なし

《8. 提案と発信》

普段から配慮していたはずの「利用者の声（態度・表情・仕草・言葉の意味など）」を一つ見逃してしまうだけで利用者の心身に大きな影響を与え、急激に進行してしまう事例であった。今回の事例をもとに他部署も参加してのケーススタディを開催し、今後の認知症ケアの質の向上に努めていく。